

「全国定住自立圏構想推進シンポジウムin但馬」の開催（結果概要）

開催日時：平成27年1月30日(金)13:30~17:20

開催場所：城崎国際アートセンター 大ホール(兵庫県豊岡市城崎町湯島1062) 参加者数:288人

基調講演：明治大学農学部教授 小田切 徳美 氏 「『定住自立圏構想』がつくる地域の未来」

地方は、ある側面ではとても強靱である一方、また別の側面から見るととても脆弱であると言える。地方のそういった性格を踏まえると、定住自立圏とは、弱さを支え合い、強さを伸ばす仕組みと捉えることができる。今回の地方創生という流れを一過性のブームとせず、今後も国民の関心を持続させていくことが、定住自立圏を前進させていくためにも必要であり、全国で定住自立圏を定着させていくことで、「都市・農村共生社会」の構築という日本の新たな方向性を実現させていくことにつながる。



小田切 徳美
明治大学農学部教授

取組事例報告：豊岡市長 中貝 宗治 氏 「豊岡の挑戦 ～但馬定住自立圏の確立に向けて～」

但馬定住自立圏において、最大の課題は産科医療体制の確保である。産婦人科医師一人当たりの負担が大きい但馬地域の現状を解消するため、平成27年1月には医師会等と連携して「但馬こうのとりのり周産期医療センター」を整備するなど、必要な医師数の確保と地域医療体制の充実に取り組んできたところ。今後は、人口減少に歯止めをかけるための政策手段として、定住自立圏の枠組みを活用し、圏域で連携して地方創生に向けた取組を実施してまいりたい。



中貝 宗治
豊岡市長

総務省報告：「定住自立圏構想の全国の推進状況について」

定住自立圏構想については、来年度にこれまでの取組成果について検証をしっかりと行っていくこととしているが、先行的に取り組む圏域を対象に人口の社会動態を分析したところ、ほとんどの圏域で人口の社会減が縮小している結果が出ている。定住自立圏が地方創生の柱として、人口減対策の切り札、定住の受け皿となるよう制度の充実・改善に努めてまいりたい。



佐藤 啓太郎
総務省地域自立応援課長

パネルディスカッション：「但馬に誇りと夢を～但馬に定住する～」

【パネリスト】

○脇浜 紀子 氏 読賣テレビアナウンサー、博士(国際公共政策)

定住自立圏の推進に向けて、地域に誇りを持たせ、一体感を醸成させるための情報発信が重要ではないか。例えば、圏域が共同して但馬テレビ局を立ち上げ、圏域で情報発信していく力を育むことが今後効果的だと考える。

○新免 将 氏 農業生産法人(株) Teams代表取締役

但馬地域に行きたいと思わせる仕掛けづくりが重要。そのために、まずは圏域内外で但馬の魅力を知ってもらうとともに、特に、地元の若者が帰って来て活躍できるような場の提供をしていくための仕組みが必要だと考える。

○西村 総一郎 氏 株式会社西村屋 代表取締役社長

高齢化している地域の働き手の現状を踏まると、今後はいかに人に定住してもらうか考えていくことが大事。働き手には企業の枠を超えてまちづくりに参画してもらい、企業経営も地域もボトムアップで活性化させていきたい。

○吉原 剛史 氏 朝来市地域おこし協力隊員

地方へ定住を希望する若者は、何かしらの期待を地方に抱いている。地方が定住先となるためには、その期待に応えられるライフスタイルを作り出すことができるような環境を提供することが重要。



(左から、佐藤課長、脇浜氏、新免氏、西村氏、吉原氏、中貝氏、小田切氏)

【コメンテーター】

○小田切 徳美 明治大学農学部教授

○中貝 宗治 豊岡市長

【コーディネーター】

○佐藤 啓太郎 総務省地域自立応援課長